

TAKAMATSUプロジェクト 1 学年

目的：「大学卒業後にどのように生きていくか」までを見通しながら、自分の進路実現に向けて、どのように現在を生き、どのような未来を築いていくのかを考えて周囲と協働して行動できる生徒を育成する。

※キャリアプラン＝進路意識高揚策（キャリア学習と課外活動など含めた総合学習）とサクセスプラン＝学習支援策が相乗的に活きる教育活動を行う。（学力があってその進学、人間力があってその学力）

- ↓・行事ごとに必ず、事前学習（目的提示&調査学習など）、事後学習（感想・振り返り記入）を行わせる。
- ↓・職員会議で、事前に目的と計画を提示し、事後に生徒の振り返りを含めて実施内容を報告する。
- ↓・生徒には全ての活動について記録を取らせていく。（校外活動、資格取得なども）

＊このプランはあくまでも三年間の教育活動の全体的な流れであり、基本となるものです。個々の活動を規定するものではなく、目標に向けて、生徒の学びの見取り図的なものです。

		キャリアプラン (キャリア・進路意識高揚)				キャリア意識に根ざした 学習モチベーション		サクセスプラン (日々の学習)			
		全校	学年	目的（生徒視点）	探究 コマ		教科学習・調査・校外模試	目的（生徒視点）	目的（教員視点）	支援 上位層 中下位層	
1 年 時	4 月	上旬	4/6入学式 4/10,11 学習リエンテーション 探究リエンテーション	飯田高校生として、どのように生活していくか（考え方も含め）どのように学習していくか、さらにキャリア教育の意義についても理解。	1	高校卒業後、また大学 卒業後の自分をイメージ することにより学習の モチベーション向上	ブリッジ教材 4/7実力テスト (スティーザーボート)	中学時学習内容に抜けがないかの確認。 学習習慣の振り返り。	中学時学習内容に抜けがないかの確認・高校生活を開始するうえでの注意点の把握。集団傾向の見立て。	PDCAサイクル、特に振り返りの重要性を意識づけ。	
		中旬	探究授業開始	1学年の探究活動を通して「問を立てる力」を醸成する。	1					予習→授業→復習 のリズムを意識づけ。 適宜学習記録調査。 生徒の心配等を吸い上げ。	
		下旬	進路希望調査 (キャリアプラン)	自己の将来像を具体的にイメージ開始。	2						
	5 月	上旬	教育活動支援システム オリエンテーション	教育活動支援システムの利用について理解。特に、学びの軌跡を電子ポートフォリオへと蓄積することの必要性・意義について理解。		学習習慣の 確立 主体的 計画的 協働的な 学習生活の実現					長いGWの学習計画を確認。
		中旬	南信総体		2					び表に層向的 かなう知識 ・勢・醸理 成解のに積留 極ま的なな 促いし。思考 判断表現・学	理具生 体的リ なズ 見ム 立へて授と 業支・援課 外家活動 連・絡家庭 に学向習け て話に題つ 整いて
		下旬	PTA 総会	5/20 学年PTA			5/15-21 家庭学習 重点週間	授業内容のまとめ。学習習慣の振り返り。	学習習慣確立状況・内容定着の確認		
	6 月	上旬	県大会 芸術鑑賞	教養醸成。 主体性・協働性の育成。	1	知識・理解に根ざした 傾聴力・思考力の向上	5/22-24 第1回考査				的た大夏 ななめ限 休提の活 活用を家 庭適効連 宜活絡補 日
		中旬	先輩に学ぶ 6/12-13 信大説明会	年齢の近い卒業生という切り口に接し、具体的な成功体験・失敗体験を知ること、進路意識を深め、学習習慣を再確立。 地元国立大学の講義・説明に触れ、高校と大学の学びの違いを知り、進路意識を醸成。	1						
		下旬	高松祭		1		6/28-7/4 家庭学習 重点週間				
	7 月	上旬	キャリア学習 「夢ナビ(わが夢)」 小論文演習	キャリア学習の一環として、自分の興味関心に合わせた大学教員の話聞き、見識を広げる。 単なる作文ではない、小論文作成の初歩を理解する。	1	主体的・協働的活動に よる集団としての力の向 上	7/5-7 第2回考査	7/8 進研模試	「大学進学」及び「全国」を意識。	「大学進学」及び「全国」を意識。	的た大夏 ななめ限 休提の活 活用を家 庭適効連 宜活絡補 日
		中旬			1			考査の結果を受けた学習習慣の振り返り。	学習習慣の確立状況・内容定着の確認。		
		下旬									
	8 月	上旬	夏の各種体験 オープンキャンパス 就業体験 看護体験 ボランティア 等	キャリア学習として、自分の進路に合わせた個別のオープンキャンパスや就業体験で、視野を広げる。		夏までの 学習をまとめ 生活を振り返り 集中学習や 体験に反映 視野を広げる 秋の課題明確化					・視野を広げるための具体的な提案・情報おろし。 ・時間を無駄にさせないための具体的な指導。
		中旬									
		下旬			1		8/23 実力テスト	8/26 スティーザーボート	夏休み中に取り組んだ復習内容の確認。	夏休み中に取り組んだ復習状況の確認	学習リズム・姿勢再確立。 学習集団再構築。
	9 月	上旬	9/8 大学模擬講義	大学模擬講義の受講により、大学での学びを体験し、学習意欲向上のきっかけとする。	2	将来像への道筋を 知ることでの 学習モチベーション向 上					学習リズム・姿勢再確立。 学習集団再構築。
		中旬	探究学習 課題研究開始	前期に学んだ問を立てる力を活かし、個々の課題を見出し仮説を立て結論を導き出す力をつける。							
		下旬	科目選択 説明会	2年時科目選択の知識・理解。 希望進路をふまえながら、建設的な選択へ。	2		9/26-28 第3回考査	授業内容のまとめ。学習習慣の振り返り。	授業内容のまとめ。学習習慣の振り返り。	考査・文理選択・模試…と連続するイベントを意識した指導。	
	1 0 月	上旬			1	学習サイクル 再確立・補強 主体的かつ 協働的に					各教科においても成果・課題を洗い出し、計画調整と指導への反映。 必要に応じて補習等も。 考査・模試については「復習・振り返り」の重要性を改めて確認。
		中旬			1						
		下旬	教育 懇談会		1		10/21 駿台HL模試 10/28 進研模試	この半年の変化や、高校生の学習スタイルが身に付いているかを把握。よりレベルの高い視点で「全国」を意識づけ。 苦手教科の現状と克服のポイントを明確にする。	この半年の変化や、高校生の学習スタイルが身に付いているかを把握。よりレベルの高い視点で「全国」を意識づけ。 苦手教科の現状と克服のポイントを明確にする。		
	1 1 月	上旬			1	キャリア意識に根ざした 学習モチベーション					計に志画。望 2系家年 統底後・ 連か進 緒ら学 日選先 活算を 用し具 た体的 学的 習に生活 話題の
		中旬			1						
		下旬	小論文演習	単なる作文ではない、小論文作成の初歩を理解する。	1		11/21-27 家庭学習 重点週間	考査の結果を受けた学習習慣の振り返り。	学習習慣の確立状況・内容定着の確認。		
1 2 月	上旬	12/5-7 大学見学	大学での学びを体験し、実際の大学の雰囲気を肌で感じ、学習意欲向上のきっかけとする。	1	知識・理解に根ざした 傾聴力・思考力の向上	11/28-30 第4回考査	授業内容のまとめ。学習習慣の振り返り。	授業内容のまとめ。学習習慣の振り返り。	要しつ学、か び教け直員に しとした野で 意のも識洗 変変革化生 出を		
	中旬	小論文演習	単なる作文ではない、小論文作成の初歩を理解する。								
	下旬			1							
1 月	上旬	慰霊式		1	自己の 現時点の 力・姿勢を把握					模試が連続し、かつ共通テスト試験が行われているという好タイミングを最大限活用。各自の達成目標を意識・計画させ、その振り返りもしっかりとさせる。	
	中旬	共通テスト 試験		2		1/6進研模試	1年時の学習内容の総チェック。 春休みへの指針とする。	1年時の学習内容の総チェック。 春休みへの意識付け。			
	下旬			1		1/20 全統or駿台 模試					
2 月	上旬	探究学習 課題発表会	一年間行ってきた探究活動をまとめる力と、多くの人に自分の考えを理解してもらうためのプレゼンテーション能力を養う。	1	「表現する」経験による 知識欲の向上				自果学 身課 習の題リ CにズA つをい と促てそ す生の徒 成		
	中旬			1							
	下旬	小論文演習	単なる作文ではない、小論文作成の初歩を理解する。			2/26-29 第5回考査					
3 月	上旬	卒業式			知識を持つことでの 傾聴力・思考力の向上		3月～2年時スタートへ向けた学習が効果的になるように、3月特編授業を計画		文理に分かれることの意味合いについて、過不足なく再確認。		
	中旬	探究学習 課題発表会 (代表者)	一年間行ってきた探究活動をまとめる力と、多くの人に自分の考えを聴き疑問点を持ち質問する力を養う。また、発表を	4		学習合宿	学習に全力を注ぐという、個々の姿勢と集団の雰囲気の強化。 新年度へのばね。				
	下旬										